



Osato Research Institute

Vol. 1 - No. 1
July 2002

ori report

大里研究所レポート

創刊にあたって

「長寿」から「健康で幸せな寿命」へ…。

この価値観の転換こそ21世紀の医療・健康を考えるキーワードととらえ、すべての人々にとっての“最高の人生=QOL”(クオリティ・オブ・ライフ)の実現を目指す。それが大里研究所の究極の研究テーマです。

国内外の研究者・医師の皆さんの積極的な参加を得て、日々、研究を進めております。このレポートは私たちの研究内容・成果を皆さまに分かりやすく客観的に伝えるため、定期的に刊行してまいります。



大里研究所

news

FPP ローマ法王パウロII世に

去る6月、バチカンにてモンタニエ博士より、ローマ法王ヨハネ・パウロII世に健康のため“FPP”が直接手渡されました。



copyright®
Servizio Fotografico
de "L'O.R."



イタリアの新聞で取り上げられました。

第4回 日本補完代替医療学会

Japan Complementary & Alternative Medicine

2001.11.10

“第4回日本補完代替医療学会”のシンポジウム「医療現場での補完医療の現状」にDr.フランシスコ・マロッタがゲストスピーカーとして参加。「アルコール性肝疾患におけるシアノコバラミン吸収不全の“FPP”による改善」を発表されました。

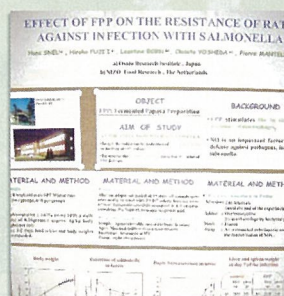


カリフォルニア酸素学会・ポスターセッション

OCC(Oxygen Club California) Meeting

2002.3.6-9=アメリカ
カリフォルニア州サンタバーバラ

“OCCミーティング2002世界大会”において、OCC理事のレスター・バック教授(カリフォルニア大学)が、NIZO(オランダ)と大里研究所の共同研究“FPPによるラットのサルモネラ感染に対する防御力への影響”をポスター発表されました。



第20回 健康博覧会

Tokyo International Health Industry Show

2002.3.14-16=東京国際展示場

“第20回健康博覧会”に、大里研究所は、(株)自由が丘クリニック・メディカル・ラボラトリと共同で出展。“FPP”を公式に発表しました。医療関係者、バイヤー、一般消費者など多くの方々が“FPP”に興味をもって下さいました。



対談-Dr.マロッタ & Dr.藤井-その1

FPPの効果・安全性に着目し、自らの研究結果を論文発表している科学者は世界各国にいます。なかでも患者へのFPPの継続的な投与を実践している臨床医師の存在は、FPPの研究にとって欠かせない貴重な存在です。

そうしたドクターのひとり、イタリアのマロッタ博士が昨年11月、学会出席のため来日した折に当研究所を訪れ、研究所副所長・藤井裕子と対談しました。その内容を3回に分けて連載します。



F マロッタ博士、昨日の発表は「アルコール依存症患者に対するFPPの効果」という大変興味深いものでしたが、先生がFPPを臨床で使われるようになったのはいつ頃からですか？

M 約6年になります。FPPは天然パイヤを発酵させた食品ですし、当時すでに世界各国のドクターが、複数の学術論文を発表されていたから、躊躇なく臨床応用に踏み切れました。

F 実は私自身、長年SLE(全身性エリテマトーデス)を患っているにもかかわらず、当研究所に勤務し始めて1年半は自分自身で試してみようという気にはならなかったんです。私にとってFPPはあくまでも研究対象だった。ステロイドでも症状を抑えられず、副作用がひどくなる一方という状態になってやっとFPPを食べ始めたんです。すると数カ月で数値がよくなった。理由はわからないけれど、ドクターは数値がよくなればステロイドの量を減らす。それを何回か繰り返しているうちに、とうとうゼロになってしまった。ステロイドを止めてから丸2年になります。

M それは素晴らしいですね。でも残念ながら、目の前に明らかな結果が出ていても、自分が学んできた医学の「理屈」に合わないとなかなか納得しづらいドクターも大勢います。

F ところで、ステロイドは諸刃の剣、

Dr. フランシスコ・マロッタ

博士は、イタリア・ミラノで消化器専門に診察する臨床医。患者との接触を通じて、いわゆる現代医療の在り方に疑問を感じ、早くから補完代替医療の研究・実践に取り組んできた。

また、ミラノ大学大学院で、WHOが後援する自然医療のコースの教鞭を取るなど、精力的な活動をしている。



効くけれど怖い薬ですが、先生は診療でご使用になる機会は多いですか？

M ええ、ステロイドは消化器系の炎症にも効きますから。でも炎症にもいろいろ種類があるのに、ステロイドは全ての炎症に対して同じ働きをするので危険です。医者にとってはメカニズムが解明されていない病気に対する最後の手段だと思います。

F 分かり易い症例はありますか？

M 私の専門ではクローン病です。調子のよい時期と悪い時期を繰り返すので、ステロイドを完全に切れない厄介な慢性疾患です。私の友人で23歳の女性患者なんですけど、子供が欲しいので、何とかしてステロイドから解放されたかった。そのままだと出産は可能ですが、副作用が大きいので負担です。そこで彼女に1日27g(9包)のFPP摂取を勧めました。すでに3年以上経ちますが、症状は非常に安定しており、元気な赤ちゃんも生まれました。

クローン病は完治の判定ができない難

病で、通常は年に1回は症状が悪化するものなんですけど、彼女は3年間全く悪化してない。偶然効いたとは考えられません。どんなメカニズムにせよ、FPPが彼女の身体の免疫バランスを調整していることは間違いないと考えます。

F 対処療法しかない病気に対して試されたわけですね。

M そうです。それにももちろん、症状がひどい状態で薬を切ってFPPに切り替えるようなことはしません。FPPのメカニズムは、まだ完全には分かっていないので、あくまでも薬のサポート役として考えています。

とにかく、もはや医学書にある方法だけを患者に適用するというのは、臨床医としては不十分だと、私は思います。

F おっしゃる通りですね。なぜ効くのか、そのメカニズムが解明されている薬を使いながら、FPPのように少なくとも絶対に悪影響がないことが分かっている、効果も科学的に実証されているモノを補助的に使う…。それで改善されれば、よいのではないのでしょうか。そういう柔軟な医療姿勢こそ、病気に苦しむ多くの患者さんが求めていることだと思います。

次号につづく



藤井 裕子 (医学博士(生理学) 大里研究所副所長)

20年にわたり、膠原病とその対処薬であるステロイド剤の副作用と闘いながら、生体関連の研究を続けてきた。大里研究所入所後、FPPの研究に取り組むうちに、多数の研究結果・実際の効果に触れ、自らを被験者とすることを決断しFPPの摂取を開始。約3年でステロイド剤との決別成功。FPPの効果の科学的検証に全力を傾注した研究活動をしている。3児の母。

研究所所長が語る“FPP”

ORI (大里研究所) 所長を勤めるピエール・マンテロ博士は、フランスを本拠地としたヨーロッパでのFPP研究の中心人物で、日本とヨーロッパを行き来する多忙な生活を送っています。

今回、日本での“ORI Report”創刊に当たり、改めてFPPの正確な情報について、また日本・海外を含めた研究所の最新成果等について、自らお話しします。



大里研究所所長

Dr. ピエール・マンテロ

医学博士〈生理学・免疫学・血液学・生化学〉

◆ FPPとはどんなものですか？

大里研究所の開発による、パパイヤの自然発酵法“FPP製法”、および日本国内では、その製法によって製造された商品である“**パパイヤ発酵食品**”を指します。現在、大里インターナショナルが、国際標準 ISO9001 (品質管理システム規格) および ISO14001 (環境管理システム規格) を認証取得した国内工場“ネオリバー”で製造しています。

商品は、“FPP (Fermented Papaya Preparation)”の名称で販売されています。

◆ 博士が、特にFPPを研究される理由は？

数ある抗酸化製品や抗老化製品の中で、FPPには際立った特長が4つあります。

- ① 遺伝子操作をしていない天然パパイヤを原材料とし、さらに製造過程で化学薬品を一切使用していない、100%天然自然発酵食品である
- ② ISO9001、ISO14001の国際標準に沿った品質・環境管理の元に製造されている機能性食品は、他に例がない
- ③ 外部の科学者たちによる独自の臨床テストが複数行われ、科学的な学術論文が日本国内外で発表されている
- ④ すでに2種類の抗老化作用 (抗酸化作用と免疫増強性質) が、明らかに認められている

◆ FPPは私たちの体内でどのように働きますか？

2つの主要なメカニズムがあると考えられます。

- ① 過剰となった活性酸素 (フリーラジカル) の中和
- ② 免疫増強：インターフェロン γ (ガンマ) の生産を促進し、マクロファージの活動を刺激します。

また、体内に蓄積された重金属の毒性を細胞の新陳代謝の段階で除去する、重金属の“キレーション”に効果を発揮するメカニズムも存在することが明らかになってきました。

◆ FPPの特長と安全性について

“FPP”は、高い抗酸化性と免疫増強の性質をもった自然発酵食品です。化学薬品を一切使用せず、遺伝子操作を施していないパパイヤを使い、国際規格に沿った製造環境で作られています。副作用がなく、毒性がないので、どなたにも安心して食べて頂けます。特に…

- 老化を遅らせ、健やかに生きるために
- フリーラジカルの過剰や免疫の欠乏による病気を患っている方に

◆ FPPは特にどのような方に向いていますか？

- ① 以下の要因が引き起こすフリーラジカル過剰の症状：

環境因子：大気汚染、たばこ、アルコール、ストレス

フリーラジカルが主要因または悪化要因の病気：

白内障、ガン、心臓血管系疾患、退行性疾患 (アルツハイマー、パーキンソン病 etc.)、炎症性疾患 (クローン病、関節炎、リウマチ etc.)、呼吸器疾患 (ぜんそく、気管支炎 etc.)、糖尿病、肝炎、エイズ

抗酸化物質の欠如：食品、ダイエット、老化

- ② 免疫増強が必要なもの：

感染症：風邪、インフルエンザ、HIVウイルス

各種炎症・疲労・老化など

- ③ 皮膚病：老化、太陽光線、大気汚染

◆ FPPに関する研究所の今後の予定について

当研究所は、ユネスコが協賛する (財) 世界エイズ研究予防財団・日本事務所を併設しています。

財団の理事長であり、パストゥール研究所の教授を勤めるリュック・モンタニエ博士による研究“FPPによるエイズ患者 (コートジボワール/アビジャン) の免疫改善”の好結果により、医薬品としての“FPP”認可申請に向けて、大里研究所の活動にはずみがつきました。

少しでも多くの患者さんのQOL改善に役立つよう、今後一層の研究努力を重ねてまいります。

FPPの基本的な摂り方

ストレス	体 調	摂取量・回数
I	● 良好 ● 健康維持のため ● 老化・加齢に伴う退行性の病気予防	1包 (3g) ~ 2包 (6g) / 日
II	● 体調不調の自覚あり ● 時々痛みがある場合も	2包 (6g) × 1 ~ 2回 / 日 《2包 ~ 4包 / 日》
III	● 医師より病気の診断あり ● 痛みが絶えずある	2包 (6g) × 2 ~ 3回 / 日 《4包 ~ 6包 / 日》
IV	● 重篤な病状にありQOLを望む	3包 (9g) × 3回 / 日 《9包 / 日》

午前10時、午後3時 (食間)、または就寝前に、口のなかで唾液で溶かして食べます。食べた後10分間は飲食を控えて下さい。FPPが唾液と混ざり、体の中で活性な状態になります。



摂取量および回数は、自分のストレスの段階と体調に合わせ、生活のなかで無理のないように調節します。
左表は、大里研究所による臨床研究を元にした摂取量の目安です。

症例

“FPP製法”によるパパイヤ発酵食品“FPP”を摂取した方々の声を集めました。
 なお、ヨーロッパでは医師が患者のQOL改善のために勧める場合が多いので、
 重篤患者さんの報告が多く見られます。



FPP
 Fermented Papaya Preparation
 Free Radical & Redox Regulator, Immunomodulator
 Metal Chelator & Anti-aging

病院での使用

◆子供の重症患者／小児医療センター

多量の抗生物質を使用した結果、免疫力が低下している重症の子供患者が多いこの大規模病院の耳鼻咽喉科では、本来の免疫力を取り戻し、治療効果を促進する試みとして本格的なFPPの摂取プログラムを取り入れる予定。

◆ルイ・パストゥール医学研究センター 分子免疫研究所附属診療所

免疫治療担当医の指導のもと、通院ガン患者に対してFPPを試用。ガン自体により、また抗ガン剤・放射線治療により免疫力が低下している患者にも、インターフェロン-γの生産能向上が見られると同時にQOLも改善した。現在、病状と免疫数値へのFPPの影響を科学的に研究中。

腫瘍・肝炎

◆57歳女性

骨髄ガンを患い、毎日背中にひどい痛みがあったが、FPPの摂取により痛みが軽減し、QOLはかなり改善された。化学療法や放射線治療の間は摂取を控えたが、治療の苦しみを乗り越える力を与えてくれた。また、治療後の回復も改善された。

◆43歳男性

C型肝炎に苦しんでいたが、さまざまな問題がありインターフェロン療法も受けられない状態だった。FPPでQOLは改善され、肝臓の数値も大幅に低下、通常値と測定されるまでになった。

◆43歳女性／京都府

大きさ7cmチョコレート嚢腫（卵巣腫瘍の一種）の手術を1ヶ月後に控え、1日18g（2包×3回）のFPPを摂取開始したところ、2週間後の検診で5cmになり、手術は延期。現在1日6gに減らして4ヶ月目。嚢腫が小さくなっており、経過観察中。

糖尿病

◆75歳女性／グルノーブル在住

長年、糖尿病とインシュリン治療に悩まされてきたが、FPPで血糖値が改善、インシュリン注射も軽減できた。

◆64歳男性／サン・マルタン在住

15年間におよび糖尿病による瘢痕のため、仕事にもつけない状態だった。FPPはこの問題を解決し、また血糖値を大幅に低下させてくれた。

呼吸疾患

◆43歳男性／リヨン在住

長年の喘息により好きなゴルフも2～3ホールしか回れなかった。FPPにより今では18ホール回ることができる。また、気管支拡張剤（Ventoline）の摂取も減った。

◆72歳女性

慢性気管支炎とヴェーグナー症候群による息切れのため、毎日16時間以上の酸素吸入、および大量の気管支拡張剤の服用が必要で、外出できなかった。FPP摂取により、酸素療法が不要になり、薬の量も10分の1に減量。今では毎日、外出を楽しんでいる。

疲労

◆70代女性

FPPを摂り始めてから疲れが取れ、体がよく動くようになった。

◆46歳男性／パリ在住

汚染された環境（パリ市内）に住み、日常的なストレス、多量の喫煙・飲食をしているが、10日間の摂取で、疲れが軽減され、より快適な生活を取り戻すことができた。

アトピー

◆9歳男児

1日1包（3g）自発的に摂取し、かゆみが治まるとやめている。

◆7歳女児

全身アトピー性皮膚炎。1ヶ月で症状がよくなりつつある。

火傷・虫刺され・外傷・炎症

◆49歳女性

虫刺されにFPPを舐めてつけると消炎・かゆみ止め効果がある。火傷や擦過傷に、脱脂綿やガーゼに水で溶いたFPPを含ませたものを当てておくと治りが早く、痕になりにくい。吹き出物に、ごく少量のFPPを唾液に混ぜて塗ると、治りが早く、痕にもなりにくい。

その他

◆50代男性

就寝前にFPPのごくごく薄い水溶液で目を洗浄。また、日中は疲れ目、目の乾きを感じた時に目薬としても使用している。

◆50代男性

食べたあとの包に水を入れ、それをアフターシェーブローション代わりに塗っているが、以来、剃刀負けもカブレもなくなった。

●本レポートについてのお問合せは下記までご連絡ください。